



# リモートワークとProfileXT®

---

「在宅勤務におけるパフォーマンス向上のヒント」

# はじめに

いつもと異なる状況に直面した時、人が示す反応や行動はきわめて多様です。

この違いは、その人のこれまでの経験、内面にある動機、行動特性などから

生まれます。人物特性を知ることによって、起こり得る反応と行動を予測しやすくなり、その人が必要とするサポートをよりスムーズに提供できます。ProfileXT®（PXT）の結果は人の感情やその人が期待することをより良く理解するために役立ちます。

この冊子はPXT各項目のサマリーとリモートワークにおける特徴的な反応や行動を一例として示しています。この情報を元にご自身のパフォーマンス向上のヒントにしてください。

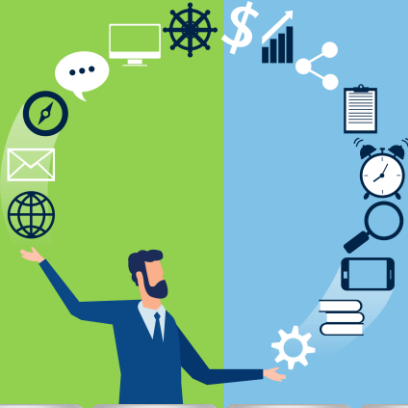
また、この情報は共に働く人へのサポートを考える素材としても活用可能です。共に働くメンバーのリモート環境における行動傾向を知り、お互いの違いを理解した上で、どう協業すべきかを考えることが可能です。また、ガイドの情報を元にして対話を行う事で、これまで見落とされていた物事の捉え方の発見や偶然性を伴ったアイデアとの遭遇が得られるかもしれません。



# エネルギー

## タスクを実行するペースの度合い

- ・ 着実にやり遂げる
- ・ 我慢強い
- ・ ゆったり構え、リラックスしている印象を与える



- ・ マルチタスクを好む
- ・ 自分から積極的に仕事に取り組む
- ・ 鋭敏で自発的

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

### サマリー

**1寄りスコアの方**は、在宅により自分のペースを守れるなど、じっくりと集中できる環境ではその力を発揮するでしょう。一方、チャットなど含めた社内からの頻繁なコンタクトにストレスを覚える可能性がありますので、コンタクトをするときは本人のタスク状況を把握したうえで関わるのが好ましいでしょう。

**10寄りスコアの方**は、メールやチャットなどにすぐに反応してしまう事で、業務の優先順位が崩れ、散漫になることがあるかもしれませんが、忙しい環境を心地よく乗りこなします。逆にリモートワーク環境下でタスクが減った方は、マルチに働けないことで意欲を低下させてしまう恐れがありますので、そんな人には新たな仕事を渡すことが、かえって意欲向上につながるかもしれません。

### 実際の声

1

- ・ 電話に妨げられることなく、自分のペースで集中して業務に取り組める時間が生まれたことが嬉しいです。
- ・ 仕事量が増えたため、計画していた通りに業務が終わらないことにストレスを感じている。出来ないことは出来ないと伝えることの重要性を改めて感じた。

4

5

- ・ お互い様子が見えない分、他の人からいろいろな情報が飛んでくるため、優先順位の付け方が難しい。

6

7

- ・ オンライン会議が続いてもストレスを感じない。忙しくしていることが自分らしいと感じている。
- ・ 営業活動で顧客訪問をしたいのだが、来訪禁止や、案件の少なさなど忙しくない環境がストレスになっている。

8

9

- ・ メールや社内チャット等が入るとすぐに反応してしまいます。何か気になったタスクがあるとすぐにアクセスしてしまい集中が散漫になります。

10

- ・ 組織的に決めたり進めたりすることに、普段以上に時間がかかることがストレスと感じてしまう。

# 主張性

自らの意見を表現したい度合い    コントロールへの関心度合い



- 他人の意見を  
受け止める
- 人を率いるより  
従うことを好む
- 許容的

- 意見を発する  
ことを好む
- 人に従うより  
自ら導きたい
- 達成志向

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

## サマリー

**1寄りスコアの方**は、大勢のミーティングの際には、自発的に発言することに躊躇する方もいるようです。周囲の人は、本人に語り掛けて困ったことがないか、意見がないかと差し向けてみるなど、細やかな対応を行う事が効果的ですが、大勢のミーティングよりも個別の会話で行うと意見を吸い上げやすいでしょう。

**10寄りスコアの方**は、主張することにためらいはないものの、相手の反応を得られないなど、他者や状況をコントロールしたいという特性が、リモートワークの環境においてはストレスに感じることもあるでしょう。何かしら皆の前で考えを発信する場を与えることが、彼らのストレス解消の機会になるかもしれません。

## 実際の声

1  
2  
3

- 対面と比べて、上司の考えや意向を確認しづらいのでその点は苦勞します。
- 大勢のミーティングでは、相手が水を向けてくれない限り、存在に気付いてもらえないこともあります。もっと意識的に、自分の意見を発しないといけないという気にさせられます。

4  
5

- オンラインミーティングでは、リアルの時よりも話しやすい気がします。参加者の顔が同じ距離で見えているので、対等な位置関係であるように感じられるのかもしれませんが。
- 例えば会議の中で、主にしゃべっている人が会話の中心だが、しゃべっていない人はどんな考えを持っているのだろう？と顔が見えないので余計に気になる。

6  
7

- オンライン会議などでは、多くの人が発言タイミングの様子を見るので、まどろっこしく、つい自分が発言してしまうことが多くなる。

8  
9  
10

- ミーティングで自己の考えを述べることに躊躇はない。ただオンラインだと相手の受け止め方ははっきりせず、手応えがないと思うことがある。
- 他の人の意見を遠距離でも抑え込みたい欲求が、不慣れなテレワークにより余計に自分の思うとおりにならずストレスとなりやすい。

# 社交性

## 他者と交流することへの関心度合い

- ビジネスの話から脱線しない
- 無駄話を避ける
- 一人の環境で苦も無く仕事を行うことができる



- 人に関心を持ち会話を楽しむ
- 新しい人と接点を持つことをためらわない
- グループ志向

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

### サマリー

社交性が**1寄りの方**は、人との接点がないことに不便さを感じることはあっても寂しさは感じないでしょう。オンライン会議は不必要な会話がなく、本題のみを話し合えるため、ストレスが軽減されるようです。彼らは一人で働くことに最も没頭できる特性のため、そのポテンシャルが最大化される可能性があります。逆に**10寄りの人**は、雑談

や本題とは違う会話がなくなることにフラストレーションを覚える可能性があります。コミュニケーションを空気のように欲する彼らに対しては、仕事の話のみならず、カジュアルなコミュニケーションもあわせてとることが重要です。彼らはオンラインの環境でも、能動的に人との接点を築いていきます。外部とのネットワーク構築力はこの特性の強みであり、また本人にとっての喜びでもあるでしょう。

### 実際の声

1  
2  
3

- 邪魔されず集中できるので仕事がかどる。そして気楽でいられる。
- オンラインミーティングでは不必要な会話が省かれるので、効率的で生産的だと感じる。

4  
5

- 周囲に気をつかう必要がないので気分が楽なことがあります。一方で相手の状況が見えずにコミュニケーションを取る際に気を遣うこともあります。
- 新しく会う人がいないのが、つらくはないが、少し違和感には感じています。

6  
7

- 私はオフィス勤務の方が働きやすいです。オンライン会議等でコミュニケーションをとることは出来ませんが、画面上の顔だけでなく、全体の雰囲気を感じたいです。

8  
9  
10

- 人と会えないことにすごくストレスを感じています。リモートでの会話でも十分な内容もありますが、対面の会話の方がより重要だと認識しています。
- 人との接触がない状況での仕事は、力を出し切れません。人が喜ぶことを考えてそれを実行し、満足感を得てきたので、人とのコミュニケーションがない中での仕事はきついです。



# 組織従順性

## 権限を持つ人が定めた規則への反応度合い

- 「物事のやり方」に疑問を抱く傾向がある
- 既存の仕組みにとられない  
枠外思考ができる
- もし納得できなければ関係者に聞き出す



- ルールを守って仕事をする
- 決められた仕組みに対して協力的で前向き
- 権威を受け入れる

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

### サマリー

組織従順性が**1寄りの方**は、一人の環境下で独自のアイデアを形にすることに楽しさを覚える一方、形式的すぎるルールには疑問を覚えるでしょう。過剰管理になりすぎずとも、ルール順守の必要性について理解を得るよう努めましょう。また彼らが発信する新しいアイデアや考えに対してオープンな姿勢を取りましょう。

**10寄りの方**は、普段の秩序が乱れる在宅での労働環境に、先が見通せない不安を募らせるかもしれません。組織からの情報発信が限られる中でも、ある程度のガイドラインや明確な手順が示されることで安心します。また、組織の期待に応えようと、むしろまじめに仕事に取り組もうとしすぎることもあるかもしれませんので、適度に息抜き抜きを促すことも大切です。

### 実際の声

1  
2  
3

- 会社方針を少し冷めた目で受け止めている。
- ざっくりとした在宅勤務の運用ルールでも別に困らない。

4

- リモートワークの時間を楽しんでいます。考える時間がすごく増えました。創造、妄想など、私にとっては、重要な時間だと改めて認識しました。

5

- 会社にいると周りの動きに影響を受けて生産性がかなり低下することが前から気になっていた。在宅勤務が常態化して自分の仕事に集中でき、生産性やクリエイティビティが上がったと思う。

6

- 出社を控えるようにと指示されると出社すべきか判断に迷うので出社禁止と明確な方針があると助かります。

7

- 組織から自分が見えないからこそ、むしろ仕事を頑張ってしまう。

8

- 規制された状況では、一定のルールに則らないと皆が好きなことをしてしまうので好ましくない。

9

- 仕事ぶりを評価してくれない状況では、意欲が湧いてきません。与えられた課題については、結果を出すようにしています。人とのコミュニケーションがある場合には、更にその人が喜ぶような結果を出すように邁進します。人から定期的に仕事ぶりを見てもらえるならば、良い評価を得られるような努力をしたいと思います。

10

# 態度

## 人や物事に対する期待や信頼の度合い

- 健全に疑い、その疑問を投げかける
- 潜んでいるリスクに敏感に反応できる
- 「グラスはすでに半分空だ」



- 他人を信用する
- 希望的な観測をもつ
- 「グラスにまだ半分も残っている」

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

### サマリー

態度が**1寄りの人**は、目に見えないリスクを大きなものとして捉える傾向があります。先行きの見えない変化の中ではそのような慎重さも必要な要素となるため、周囲の人は彼らのリスクへの視点に一目置くことは重要です。また、リスクを軽減する具体的な情報を提供することは彼らの助けになるでしょう。**10寄りの人**は、現状をむしろ

チャンスととらえ、不透明な現状を歓迎し、創造的に乗り越えようとしています。しかし、他者の恐れやネガティブな感情を軽視する可能性も含んでいます。見通しの甘いまま、一部のメンバーでプロジェクト等が進む際、後になって課題が見つかり関係者を困らせることがリモートの環境では起こりがちですので、周囲とのこまめなすり合わせにも意識を置くべきでしょう。

### 実際の声

1  
2  
3

- オンラインセミナー実施の際など、仕事において事前準備であらゆるリスクを想定する。
- 最初は、この世界はどうなっていくのかと思ってしまい恐れも感じた。きちんと情報を集めて自分なりに整理がいたのでよかった。

4  
5

- 今後のビジネスの先行きについて、いまは表面化していないが、のちのち大きな打撃が来るのではないかと、悲観的かつ現実的に将来をみている。
- 新しいビジネスを作るうえでは予測できないことが多く、同じように慎重な人のサポートが心強いし、楽観的な人は現状を甘く見ずにもう少し深く物事を考えてほしいと感じる。

6  
7

- 今の環境をあまり悲観的に思っていない。変化の良い点を見ることで、楽しく創造的に仕事ができているので充実している。

8  
9  
10

- このような状況の変化はむしろ新しいことを始めるチャンスであり、新たな発見があるので、この変化をむしろ歓迎している。
- テレワークについて特段不安や心配は無かったが、始めてみてもメリットしか感じない。

# 決断性

## 意思決定のスピードと注意深さの度合い

- 時間をかけ、じっくり考える
- 注意深く、たいてい衝動的ではない
- あらゆる選択肢を分析する



- 素早く行動に移す
- 多くの決定でリスクを取る
- たとえ時間があっても、さらなる情報を集めるニーズは感じない

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

### サマリー

決断性が**1寄り**の人は、物事を決めるにあたって、じっくりと一人で検証できるという利点がありますが、同僚や上司からの意見を仰ぎたいと感じる局面もあります。リモートの環境で孤立している中、すぐに相談できない事でストレスを抱くようです。周囲の人は、本人が意思決定をできるよう、相談相手となるようなかわりを意識するとよ

いでしょう。決断性が**10寄りの場合**は、自分の裁量で物事を決められる環境にいる方には快適ですが、周囲への確認が必要だったり、周囲が原因で物事が前に進まない事には強いフラストレーションを覚えるでしょう。チームで何かを進める中では、周囲の反応が見えないことで、自分のペースがどのように相手に映っているのかが測りかねる点も、ストレスの要因となるかもしれません。

### 実際の声

1  
2  
3

- 決断に迷ったときも、わざわざこんなことを上司や同僚に意見を聞くというのがはばかられ、ためらうことがあります。

4  
5

- 何かタスクを進めるにあたって、本当にこれで進め方に問題がないかどうか、誰かに相談したくなる。
- あれやこれやと考える時間は延びたような気がします。他の人と細かく擦り合わせる時間がないので、置かれた状況の中で決めようという覚悟は高まっている気がします。

6  
7

- オンラインだとコミュニケーション上、相手の表情までは読めないで、周りとのペースをより注意して合わせる必要があると思う。

8  
9

- リモートワークではこちらが進めたいものごとのスピード感が相手に伝わらないことがあり、自分が迅速に動いて関係者の理解を取り付けに行ったときに、相手側の都合でブレーキがかけられることにストレスを感じる。

10

- 状況が変わらず課題が少ない環境では、決断するものごとも少ないため、自分の能力を発揮できていないと思っています。



# 協調性

## 他人のニーズや考えを汲み取る意欲

- ぐらつかない、直接的
- 不同意もいとわない
- 信念を貫く

- 自説を守るより調和を重んじる
- 他者と衝突しない
- 協力的で愛想がよい

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

### サマリー

協調性が**1寄り**の人は、周囲に合わせる必要のない一人での職場環境を心地よく感じます。ただし、自分自身を貫く特性が強くと、本人にそのような気はないものの、オンラインでの会話やチャット等のコミュニケーションで、相手に対して率直すぎる物言いになることが普段以上に加速されるかもしれま

せん。協調性が**10寄り**の人は、摩擦や衝突を避けたい特性のため、グループでのコミュニケーションが少ない環境では余計な気遣いが減る点をメリットと感じつつも、メールやチャットなどでのやり取りでは相手を傷つけまいと、人一倍気を使います。周囲の人はフランクなやり取りを推奨するなどして、本人の懸念を軽減してあげると良いでしょう。

### 実際の声

1  
2  
3

- オンライン会議は時間も決まっておらず短時間なので気が楽。相手に忖度が不要で快適です。
- 相手の考えを慮ろうという視点はもともと弱いため、リモートだと相手の心情がいつも以上に読めずに苦労する。

4  
5

- 人の動きを気にせず、マイペースで仕事ができるのは精神衛生上、たいへん心地よい。もっとも、何か助けを必要としている人がいるのかもしれない、そこまで思いが至らないので、ひょっとしたらまずいことが起きているかもしれない。
- 相談機会が少ない分、独断で進めることもできるのは良いかもしれない。また、周りを気にせずに、自分のタイミングで仕事に集中できるのは非常によい。

6  
7

- リモートワークだと、人との調和を考えなくても良い局面が増えた一方で、チームで動くうえでは、実は普段以上に調和が必要なのではないかと気づいた。
- 対面なら、相手の雰囲気や察しながらやりとりができたが、メールやチャットが増えているので、相手の受け取り方を考えると普段以上に文章の書き方に気を付けるようになったし、時間がかかる。

8  
9  
10

- 当初は得られる情報が限定的でストレスを感じましたが、開き直ると周囲を気遣うことよりも、自分自身に集中できて快適でパフォーマンスも上がったように感じます。
- ネットワークの向こうにいる相手の感情、気持ちを捉えることが出来ないときに、心地悪さを感じる。そのため調和の雰囲気を作り出そうとして、フレンドリーな声かけ、関わりを思わずしていることがある。

# 独立性

## 他者からの指示監督の受け入れ度合い

- 上からの監督を苦も無く受け入れる
- 支援と励ましを歓迎する
- ガイドラインのある状況で働くことを好む



- 上からの強い監督を好まない
- 冒険好き
- 独自の方向性を定めるのを好む

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

### サマリー

独立性が**1寄りの人**は、明確な指示と枠組みを与えられなければ、リモートワークに困難を感じるかもしれません。彼らにとって重要となるのは、感情面でのサポート、明確な目標と具体的なタスク、上司と容易に連絡がとれること、質問ができてすぐに回答を得られることが考えられます。独立性が**10寄りの人**は、直接的な管理監督の少な

い状況に自由を覚え、快適に仕事をするだけでなく、むしろモチベーションを高める傾向があります。一方で、何をしているかが見えずらい中で、独断での行動が組織の規律を乱すような程度に発展してしまう場合には注意を要します。リモートの環境でも本人の行動を管理したい上司は、彼らの特性を考慮して、適度な管理の度合いを見出すことが肝要です。

### 実際の声

1  
2  
3

- 行動に対しての評価が少ないので、自分の本当の力を発揮できていないとは思えません。定期的な評価をしていただきたいです。
- 一人で仕事しているとこれでいいのかなと迷うことがある。上司にはチャットで聞くようにしているが、あまり聞きすぎるのも良くないのかなという葛藤がある。

4  
5

- 周りの置かれている状況やどのように業務を抱えているかは見えにくく、すぐとなりのデスクでならわかるような助け舟を出す、出される環境はないので、より自立した行動を求められると感じます。
- 物事がうまくいくときは最高の環境ですが、うまくいかない時や心配な時には、周囲の人とのコミュニケーションが大事だと、改めて知らされました。意見を求めている自分がどこかにいます。

6  
7

- 人から指示されずに仕事をするのが好きだということを再認識。自分の好きなようにものを考えて進められる環境が心地よい。指示監督のない環境が快適。

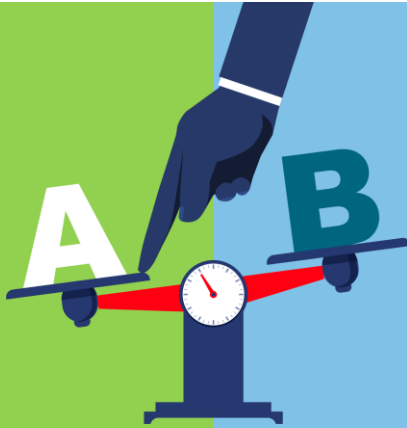
8  
9  
10

- 独力でいろいろ工夫しながら仕事ができるのは楽しいし、士気も生産性も上がる。
- 在宅勤務で一人ひとりの裁量が増し、自立的に行動できるので助かっている。

# 判断の客観性

## 意思決定をする上での判断基準

- 主観的
- 予感に従って行動する
- 過度に系統的な思考スタイルは好まない



- 「頭脳」と事実を重視する
- 合理的で細部にまで気を配る
- 感情を排した思考

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

### サマリー

判断の客観性が**1寄り**の人は、リモートワークで情報が得られない環境の中でも、自分の中にある感性を活かした判断が出来る点ではストレスが少ないでしょう。彼らのこの特性は、前例のない独創的な発想の源泉となるかもしれません。しかし、時にはリスクを看過してしまう可能性もあるので、周囲の人は、その判断の根拠を確認すること

も必要かもしれません。判断の客観性が**10寄り**の人は、情報が限定的な労働環境でストレスを覚えるでしょう。また前例や経験則、データがない環境では判断力が鈍る可能性もあります。一方で、オンラインの会議では、感覚や雰囲気といったあいまいな要素が排除されるために、合理的な意思決定が推進されることを歓迎するでしょう。

### 実際の声

1  
2  
3

- 非対面だと直感的に判断する材料が減るので、普段よりもやや客観的になっている気がする。
- 当初は得られる情報が限定的で不安になりましたが、開き直ると、より自分の感覚や直感に集中でき、少ない情報をより繊細に感じ、それを元に判断していると思います。

4  
5

- これまで、直感でその瞬間は判断することがあっても、最終決定は論理的な情報を元に行う仕事の仕方でしたが、リモートでは情報が入ってこないのも、より直感に頼って物事を判断するケースが増えたように思う。

6  
7

- 独りよがりの判断にならないように、相手のいる仕事は必ず過去の経緯を振り返ったり、記録を調べたりしてから判断することになっている。他の人の意見や相談をジャッジする場合は、その背景や前提となる事実関係に注意するよう努めている。

8  
9  
10

- 相手の顔色や発言に過度に付度することがなく、データに基づいて冷静な判断を行えます。効率的です。
- 仕事を実行する上で、意思決定するための情報収集に時間を取られています。情報を入手する手段が少ないため、ストレスを感じる事があります。また、Webからの情報が正確かどうか判断できない事があり、悩むことが出てきました。
- 在宅勤務では、職場に漂う「空気」を読む必要がないため、余計な詮索などが無くなり、合理的な意思決定が促進されるので助かっている。

# 仕事への興味

## 意思決定をする上での判断基準

### サマリー

周囲からの直接的なかかわりが減るリモートワークの環境下では、自分自身に向き合う時間が増え、自分が本能的に行いたいことに没頭していくでしょう。仕事への興味は、「思わず優先的に行ってしまうこと」を表しています。他者との対面での接点を持たないことにより、その興味領域が満たされない方もいれば、一人の落ち着いた時間

が増えたことにより、その興味領域が満たされ、より深まる人もいるでしょう。いずれの場合も、本来の自分らしさを再確認する機会であり、仕事への興味と掛け合わせて自分自身を見つめなおすことで、自分にとっての働きがいとはなにか？自分が提供できる価値は何なのか？という問いに対する気づきを得る機会となるでしょう。

### クリエイティブ

- 創造的な仕事についてアイデアを練る機会となっている。
- 仕事のやり方を変えるうえで、ITツールを中心に様々なものを組み合わせながら考えることは楽しい。
- 世の中がどうなるか考えるのが楽しく、その過程でクリエイティビティを発揮して新しい事業を開発できないか考えているのが楽しい。

### 機械・作業

- 在宅では身体を使った作業などの機会が減り、息苦しさを感じてしまう。
- 庭木の手入れを毎朝晩することが日課になっており、それがストレスの解消につながっている。
- 本来の職域と関連しない技術分野に興味が広がっている。

### 研究・分析

- 時間を気にせず掘り下げて没頭する度合いが高まったと思います。
- 本をひたすら読んでいる。学習したことを仕事のネタとしてストックしている。
- 自分のやらなければならないことではなく、事実の探求など、どうしても好みの仕事を優先して行ってしまう傾向が強くなった気がする。

### 財務・事務管理

- なぜか以前より細部へのこだわりが強くなった。リモートワークでは対話よりも資料作りなどの作業が増えたので、よりきっちりしたものを作ろうという意識が強くなった。
- ずっとやれなかった、情報を整理する作業に集中できるし没頭できる。
- 学習したことをドキュメント整理して新たな情報を形にしているが、以前よりそのスピードや質が高まった。

### 事業開発

- 新規事業やビジネスをより良くしていくにはどうしたらよいかを寝ても覚めても考えている。
- ビジネス成果につながる行動が出来ないことにストレスを感じる。
- ビジネスを考えることを楽しんでいます。与えられた機会なので、前向きに考え創造しています。

### 人的サービス

- いま困っている顧客を支援できることがやりがいになっている。
- 自分の仕事に対して、喜ばれたり、感謝を述べられることが励みになっている。メールやチャットでのフィードバックが嬉しい。
- リモートワークでは人とかわかっての仕事に限界があります。人が本来持っている心や感情の部分は、やはり対面でないと繋がれないと痛感した。
- 対面も電話もなく、基本的にメールでのやり取りだと、相手のトーンがつかみにくく難しさを感じるし、交渉事がメールとなり困難を感じる。

<https://www.hrd-inc.co.jp>